

2016 年 10 月 27 日

報道関係者各位

児童労働のないチョコレートを世界に！ 「チャイルドレイバーフリーカカオ・イニシアティブ」 スタートアップのクラウドファンディング実施中

世界の子どもを児童労働(*)から守るために活動する認定 NPO 法人 ACE (東京都台東区、代表岩附由香) は、このたび、支援地であるガーナおよびその周辺地域から児童労働を恒久的になくすことを目指し、「チャイルドレイバーフリーカカオ・イニシアティブ」プロジェクトを計画するとともに、このプロジェクトの実現に向けて、「日本で最初のそして最大のクラウドファンディングサービス」とされる REDYFOR を通じたクラウドファンディングによる資金調達を開始いたしました。

詳細は以下の通りです。

1. 「チャイルドレイバーフリーカカオ・イニシアティブ」とは

児童労働によって作られていないガーナ産カカオを使ったチョコレートを開発し普及させることを通じて、「児童労働のないカカオ」が継続して生産できるようにするために、ACE はこのたび「児童労働のないガーナ産カカオを使ったチョコレートを広めたい！」と題するクラウドファンディングを開始いたしました。

「児童労働のないカカオ」(児童労働によって作られていないカカオ) の生産、そのカカオ豆の輸入、その豆を使って作られるチョコレートを販売する仕組みを確立し継続することができれば、私たちの直接的な支援が終わっても、現地の生活は安定し、子どもたちは学校に通い続けることができます。そして、新たな村へ ACE の活動を広げることができれば、生産地域に 190 万人いる児童労働者の数を減らし、教育を受け健やかに育つ子どもたちを増やすことにつながります。

私たちは、2009 年からガーナ・アシャンティ州のカカオ生産地で、子どもたちを児童労働から救う活動を始め、大手製菓企業との連携も実現しながら、活動を発展させてまいりました。そして、今後も「児童労働のないカカオ」の生産を確実にし、このカカオを使ったチョコレートを世の中に広め、それをきっかけとして世界のカカオ生産の現場から児童労働がなくなる方向へと変化の動きを作り出したいと考えました。

残念ながら、現在、カカオ豆生産者の業界では必ずしも児童労働問題の解決が優先的に解決すべき問題であるとはみなされておらず、私たちはこの現状を変えていく必要性を強く感じております。その一方で、需給のバランスが大きく変化しているなかで持続的な供給の仕組みを築くことに関してはすべてのステークホルダーの利害は一致しております。また、昨年、国連が採択した SDGs (持続可能な開発目標) のなかでも児童労働の解消が課題のひとつとして明確に示されたように、この問題を無視して持続的なシステムを作り出すことは不可能であると私たちは考えております。

このような観点から、児童労働のないカカオ豆の生産を定着させ、将来的にはサプライチェーン上にいるすべての関係者と連携し、これを普及させていくために、ACE はこのたび「チャイルドレイバーフリーカカオ・イニシアティブ」を策定し、取り組んでまいることといたしました。

2. 「チャイルドレイバーフリーカカオ・イニシアティブ」の概要

1) カカオ生産地に持続可能な「児童労働のない村」を確立

ACE は、児童労働のないカカオの生産システム確立の支援に今後より一層注力してまいります。具体的には、支援活動(項目 4 に詳述)が完了し児童労働がなくなった村で、地元住民が児童労働のモ

ニタリングを継続して行っていくためのトレーニングや、啓発イベントの実施。さらには、新たに児童労働をなくすための活動を始める村の調査を行い、ほかの地域で今も働いている子どもたちを児童労働から救い出す活動を行ってまいります。

2) 「児童労働のないカカオ」の ACE オリジナルチョコレートを開発

チョコレートの裏側にある児童労働の問題を知らせ、カカオ生産地での取り組みを支援する人たちを増やすために、ACE の支援地で収穫された「児童労働のないカカオ」でできたオリジナルのチョコレートに関連業界の皆さんと連携し開発いたします。これまでの「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を進化させ、より密接に生産地の人たちとのつながりを感じられるチョコレートにしたいと考えております。そのチョコレートを通じて「世界中の児童労働をなくすことは可能なのだ！」というメッセージを多くの方々に伝えていきたいと考えております。

3) 「児童労働のないカカオ」の生産を国際会議で提言

2016 年 10 月 26 日、27 日にコートジボワールで開催中の世界カカオ財団 (WCF) の国際会議に出席し、会議に参加している各国の企業や関係者と交流いたします。そして、ACE がガーナで行ってきた児童労働をなくす取り組みや「児童労働のないカカオ」をアピールし、私たちが活動してきたコミュニティで生産されたカカオを使ったチョコレートを作ることに賛同する企業を世界中に増やしていきたいと考えております。

なお、当会議へは、日程の関係からクラウドファンディングの成立を待たずに参加し、プロジェクトを担当するスタッフのうち事務局長の白木朋子とガーナ・プロジェクト・マネージャーの近藤光が昨日より出席しております。

3. クラウドファンディングのスキーム

募集期間： 2016 年 10 月 17 日 (月) 10 : 00 ~ 2016 年 11 月 16 日 (水) 23 : 00

目標金額： 500 万円

調達の目的 (主な資金使途) :

- ・カカオ生産地に持続可能な「児童労働のない村」を確立
- ・「児童労働のないカカオ」の ACE オリジナルチョコレートを開発
- ・「児童労働のないカカオ」の生産を国際会議で提言

4. プロジェクトの背景と ACE の考え方

普段食べているチョコレートの裏側に児童労働があることを知らなかった私たち

日本で製造されるチョコレートに使われるカカオは、8 割がガーナ産です。ガーナのカカオ生産地には、兄弟も多く家族を支えるために、勉強をあきらめて働かざるをえない子どもたちがいます。日本に住み、チョコレートを食べる人たちは、そんな現実を知らずに、児童労働のあるビジネスの構造に組み込まれてしまっています。誰も児童労働と無関係ではなく、意識しないまま「加担」させられてしまっているのが悲しい現実です。

普段食べているチョコレートの裏側に児童労働があることを知った私たちは、カカオをつくる人たちも、チョコレートを食べる私たちも一緒にしあわせになれる途はないかと、「しあわせへのチョコレートプロジェクト」を立ち上げ、その方法を探りました。

8 つの村で 450 人の子どもを児童労働から救い、6,000 人の子どもの教育環境を改善

そんなカカオ生産地から児童労働をなくすことを目指し、私たちは 2009 年からガーナ アシヤンティ州アチュマ・ンプニユア郡の 8 つのコミュニティで、「スマイル・ガーナ プロジェクト」として本格的な支援活動を始め、子どもの救済、教育環境の改善、カカオ農家の収入向上などに取り組んでまいりま

した。

具体的には、働かされている子どもを救済する一方で、教育を受けさせようとしめない家族を説得し、学校に通わせるように働きかけるほか、地元住民や自治体と協力し、学校の建設や改築など、教育環境の改善にも取り組み、また、カカオ農家の生産性の向上や相互扶助の仕組みづくりを行うなど、児童労働がない状態でもカカオ生産が成り立つように、支援を続けてまいりました。

その結果、2015年までに450人の子どもたちが児童労働をやめ学校へ通えるようになり、また、約6,000人の子どもたちの教育環境を改善することができました。

日本においては、ガーナでの活動資金を集めるため、ヨーロッパで「しあわせのシンボル」とされている「てんとう虫」の形をしたチョコレート「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を販売してまいりました。また、学校等で使える消費者教育教材「おいしいチョコレートの真実」やドキュメンタリー映画「バレンタイン一揆」の制作、各種イベントの開催などを通じて、チョコレートと児童労働の問題を伝える活動を行ってまいりました。

これらすべての効果として、ようやくACEの支援地周辺では児童労働に頼らずにカカオを生産することができるようになりました。

これから必要になる生産システムの確立と継続

これまで活動を続けてきた8つのコミュニティでは、「子ども保護委員会 (CCPC)」という住民ボランティアによる組織を立ち上げ、定期的にモニタリングを行う仕組みを作ったことにより、カカオの生産過程での児童労働を予防することが可能となり、学校で学んでいるべき時間帯に働いたり危険な作業を行ったりする子どもはいなくなりました。しかしながら、これで安心できるわけではなく、「児童労働のない」状態を維持していくためには、村の住民たちが今後も自主的にモニタリングや児童労働を予防する取り組みを継続していく必要があります。

今もなお、世界第1位と2位のカカオ生産国であるコートジボワールとガーナの2か国だけでも、190万人もの子どもたちがカカオ畑で働いている現実があり、また、この地域にはより貧しい隣国や北部地域から人口の流入が続いているため、「児童労働のない」状態を、コミュニティの人たちが強い意志をもって維持させるには、「児童労働のないことが重要」という価値観が、生産者の間で根強く定着している必要があります。ACEとしても、これまでプロジェクトを実施してきた地域でフォローアップを入念に行い、コミュニティ単位でつくってきた仕組みがうまく機能するように引き続きサポートするとともに、まだ支援の手が届いていない地域で今なお働く子どもたちを救うために、活動の幅をさらに広げていく必要があると考えております。

このたびのプロジェクトを通じて、カカオ生産地で村の住民たち自身の力で生産システムが確立され、これを定着させ、「児童労働のないカカオ」を継続して生産することが可能になること。また、日本、そして世界中にそのカカオ豆が普及し、この産業が児童労働のない新しい世界の実現に向けて大きく前進していくことを願っております。

「児童労働のないカカオで作ったチョコレート」に込める思い

この地域の人たちがその活動を続けるためには「児童労働のないカカオを待っている人たちがいる」という実感も必要であると考えております。私たちは、そのようなカカオで作った製品を開発し、市場で広く受け入れられる商品に育てたいと考え、自らもチョコレートを作ることを決断いたしました。

今年3月には商社の協力を得て、この活動地域で収穫された「児童労働のないカカオ」(国際フェアトレード認証つき)を、初めてカカオ豆の状態日本で輸入することができ、一流ショコラティエと連携し、この豆を使って「児童労働のないカカオで作ったチョコレート」として今秋に商品化いたしました。

このたびのプロジェクトで作るチョコレートは、2017年4月頃をめぐりにプロトタイプを製造し、同年秋に市場への投入を計画しております。また、詳細な製造・販売計画はまだ策定していませんが、関連業界と連携し、「児童労働のないカカオ」が市場で認知されるよう、一定の規模での展開を図りたいと考えております。この取り組みが今後、すべての生産者の行動に影響を与え、その結果として、ACE支援地産のものをはじめとする「児童労働のないカカオ」や第三者認証のあるフェアトレードカカオを原料とするチョコレートが、2025年までに業界全体で5%程度のシェアを占める状況が実現するよう働き

かけてまいりたいと考えております。

生産地の人たちとのつながりを感じられる特別なチョコレートは、消費者が「児童労働のないカカオ」を認知し、広めるツールとなるとともに、児童労働の問題を身近に感じるきっかけにもなると考えております。このチョコレートを選ぶことは、「児童労働のない世界」を実現するための第一歩となります。多くの方々にご購入いただき応援していただくことが、大きな力になると期待しております。

以 上

*注： 「児童労働」とは

児童労働とは、義務教育期の子どもの違法な労働、16歳～17歳の子どもの危険で有害な労働を指します。世界に1億6800万人（2013年国際労働機関発表）の児童労働者がいるといわれるなか、昨年国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）にも、児童労働に関する目標があります。それは、2025年までにあらゆる形の児童労働をなくすこと。あと9年でこの野心的な目標を達成するためには、根本的に児童労働を解決する新しいモデルが必要です。私たちはこのプロジェクトを成功させ、それを世界に発信し「児童労働のないビジネスモデル」が可能であることを、証明したいと強く望んでおります。

◆本件に関するお問い合わせ先

認定 NPO 法人 ACE(エース) 広報担当： 桐村

TEL： 03-3835-7555 MAIL： press@acejapan.org